

# 2015 年度活動報告 学部授業：日本語 I ・ II

牛窪 隆太（関西学院大学日本語教育センター）

長谷川 哲子（関西学院大学経済学部）

## 1. 日本語 I ・ II の到達目標

学部に所属する留学生が、大学のアカデミックな言語活動に十全的に参加するため求められる日本語能力、およびコミュニケーション能力を習得することを目的とする。特に、学術書の理解とレポート執筆に必要な「読む・書く」技能と、授業での話し合いやプレゼンテーションに必要とされる「話す・聞く」技能について、各クラスで集中的に取り上げ、総合的な日本語力の育成を目指す。

## 2. 2015 年度の授業内容

### 2.1 日本語 I

#### ・読む・書く（水曜日）

大学で求められるレポート作成の基本を理解し、情報からレポートを作成できるようになることを目的として、以下の活動を行った。①テーマについてあらかじめ準備された「情報」（新聞記事、新書からの抜粋など）を理解する、②グループで「情報」を持ち寄り自分の言葉で説明する、③理解した「情報」から「課題」に応える形でミニレポート（1200 字）を作成する。以上の順で、まずは「情報を理解する」「理解した情報からレポートを作成する」というレポート作成の基本手順に慣れるための活動を 3 回行った。学生が作成したレポートについては、教師フィードバックを行い、書きことばの確認を行うとともに、学期最後には、5 クラス混合で発表会を実施し、成果発表の場を設けた。

#### ・話す・聞く（金曜日）

大学生活で必要とされる口頭能力を身につけるために、春学期はまず人前で発表すること自体に慣れることを目的とした。授業内での活動は主に次の 2 つである。

1) 新聞記事等の資料を読み解き、内容をまとめて発表する

2) 選定したテーマに基づき、資料を収集し、ポスター発表を行う

上記 1) では、発表を録画し、クラス内で録画内容のふりかえりを行うことで口頭発表技術の向上をめざした。2) では、クラスごとに 3~4 名のグループに分かれ、指定された候補（主に現代日本社会に関する問題）の中からテーマを選び、資料収集、ポスター作成を行った。その成果発表として、全クラス合同でポスター発表を行った。

## 2.2 日本語II

### ・読む・書く（水曜日）

日本語IIIへの橋渡しを行い、レポート作成の基礎をさらに固めることを目的として、「新書読解」（テキスト『日本の教育格差』橘木俊詔、岩波書店）と、読んだ内容について「私の論点」を立て、より学術的な表現を意識したミニレポート（1200字程度）を作成するという2つの活動を行った。各段階において、「レポート表現の基本」(①～⑧)を配布し、引用の方法、議論の組み立て方、各部分での表現の確認を行うとともに、最終課題では、自身の主張を支えるための資料を検索し、議論に取り入れることで、2400字程度のレポートを完成させることを求めた。

### ・話す・聞く（金曜日）

日本語Iでは独話に近い口頭表現を中心に扱ったため、日本語IIでは対話を中心とした口頭表現に重点を置いた。具体的には、合意形成を目指したグループディスカッションを円滑に進められることを最終的な目標とした。その準備段階では、実際のディスカッションの録画を視聴したり、ディスカッション活動の評価項目を検討したりすることにより、望ましいディスカッションのありかたに対する共通意識の形成にも時間を割いた。クラス内だけでなく、他クラスの学生との混合クラスでもディスカッションを行い、初見のメンバーどうしでのディスカッションにも慣れるようにした。まとめの活動として、ディスカッションの内容をグループでスライドにまとめ、クラス内の発表を行った。

## 3. 成果と今後の課題

### 3.1 日本語Iについて

#### ・読む・書く（水曜日）

授業に対する評価は概ね好評であったが、多くの資料を日本語で読み、複数回レポートを執筆するという内容について、大変だと感じる学生が多くいたようである。表現のケアについては、各授業担当者に一任していたため、正しい書き方を教えてほしかったなどの声も聞かれた。大学に入学した直後に履修する授業であるため、どの程度の質のものを求めるのかについて、今後、担当者間で、検討を重ねる必要がある。

#### ・話す・聞く（金曜日）

授業アンケートの結果としては、大半の学生が肯定的な評価をしていた。中には、人前で話すことへの苦手意識や抵抗が強い、自身の口頭能力への自己評価が低い等の理由で、授業活動に積極的ではない学生もいたが、授業活動を通じて各自なりの学びを多少なりとも得てくれたと思われる。ポスター発表に関しては、候補となるテーマの選定を教員が行ったため、結果的に自分たちの興味関心と異なるテーマを選定せざるを得ないグループもあった。限られた時間で全クラス同じ進度で授業を行うという

現行の制度下で、学生たちの学習意欲を喚起するテーマをどのように設定するかについて、課題が残る。

### 3.2 日本語Ⅱについて

#### ・読む・書く（水曜日）

日本語Ⅰを受けて、さらに発展的な内容を設定したが、学生たちは高い満足度（73.6%）を感じることができたようである。この背景には、他授業でのレポート執筆の経験を踏まえて、学生たちのレポートに対する意識の変化があると思われるが、レポート作成における論点の定め方、議論の立て方については、引き続き、指導方法を工夫する必要がある。

#### ・話す・聞く（金曜日）

日本語Ⅱについても、学生からはおおむね良好な評価が授業アンケートでは得られた。他クラスの学生との混合クラスで行ったディスカッションについても、春学期に同様の形態で授業を実施していたためか、特に違和感はなかったようである。ただ、ディスカッションのテーマ設定については、いずれの回も担当教員（5名）で決定したテーマを与えたため、テーマの内容や選定に疑問を抱いた学生もいたようである。授業活動としての目的を達成するために、どのようなテーマ設定のしかたがよいのか、またどのようなテーマが適切なのか、検討を要する課題である。